

令和 3 年 2 月 22 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究 A
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)
661456
選定番号
A122

代表者	校 園 名 :	大阪市立今里小学校
	校 園 長 名 :	山口 祐子
	電 話 :	06-6981-8800
	事務職員名 :	栗田 有加
申請者	校 園 名 :	大阪市立今里小学校
	職 名 ・ 名 前 :	主務教諭 藤井 優美子
	電 話 :	06-6981-8800

## 令和 2 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 2 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	継続研究 (2 年目)
2	研究テーマ	I C T を活用し、共に学び共に育つ授業を創造する ～情報活用能力育成を目指した主体的・対話的で深い学びの実践～			
3	研究目的	<p>文部科学省が「G I G A スクール構想」を掲げ、2023 年度には児童一人一台にパソコンなどの端末が整備させる予定である。新学習指導要領でも、言語能力、問題解決能力と並んで、情報活用能力を学習の基盤となる資質・能力として育成することが求められ、society5.0 の時代を生きていく児童にとって、情報活用能力の育成は必要不可欠なものである。</p> <p>○年間を通して I C T を児童が主体的に活用する授業の推進</p> <p>○教科等横断的な単元を設け、児童が主体的に情報を収集、取捨選択、分類整理し、発表することができるパフォーマンス課題の設定</p> <p>○「習得・活用・探求」の学習の流れから、協働してプレゼンテーション資料を作成し、互いの発表を聞きあったりする過程で、他学年や他校、地域の方などへの発信することによる対話的な学習をさらなる発展</p> <p>○自分の考えや意見を他者と比較することで、自分の考えや意見を確かなものにする児童の深い学びの実現</p>			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。(MSゴシック 10 点フォント)</p> <p>○情報教育への授業力向上を目的に、全教職員が情報活用能力育成の視点から授業改善を行い、研究授業を行った。研究授業を行う際には、園田女子大学 堀田博史教授を招聘し、指導講評ならびに研究を進めるにあたっての助言をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7 月 授業研究会 (特別支援学級：個別最適化学習アプリを活用した授業)</li> <li>・ 9 月 授業研究会 (5 年：北海道東野幌小学校との遠隔交流授業)</li> <li>・ 9 月 授業研究会 (3 年：南港桜小との遠隔交流授業)</li> <li>・ 10 月 公開授業 (3 年：南港桜小との遠隔交流授業)</li> </ul> <p>研究発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10 月 授業研究会 (4 年：理科の実験時 ICT 機器を活用した授業)</li> <li>・ 10 月 授業研究会 (6 年：NHK for school、PowerPoint を活用した授業)</li> <li>・ 11 月 授業研究会 (2 年：情報モラル)</li> <li>・ 12 月 授業研究会 (6 年：NHK for school を活用した授業)</li> <li>・ 1 月 公開授業 (1 年：プログラミング、4 年：東中本小との遠隔合同授業)</li> </ul> <p>研究発表会</p> <p>○4 月～6 月 (休校期間中) ホームページ、保護者メール、オンライン会議アプリ、協働学習アプリなどを日常的に活用し、双方向のやり取りを意識した取り組み</p> <p>○情報活用能力チェックリストによる児童の実態把握と課題解決のための各学年での指導実践</p> <p>○ICT 活用授業年間計画の作成と活用</p> <p>○個別最適化学習アプリ (デジタルドリル) の活用実証</p>			

5	成果・課題	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果１】</p> <p>児童が主体的にＩＣＴを活用し、協働的な学びや言語活動を行うことにより、「情報を適切に活用する能力」、「自分で考え判断する力」、「自分の考えを豊かに伝える力」を身につけることができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>経年調査・校内アンケートにおける、「学級の友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>○パフォーマンス課題を工夫することにより、児童が主体的にICTを活用し、情報を収集・取捨選択・分類整理し、発表への意欲が高まった。</p> <p>○校内アンケート「学級の友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか。」に対しての肯定的に回答する児童の割合は、前年度91%、今年度88%と今年度3%減少した。しかし、遠隔交流授業後に児童に取った別のアンケートの記述欄では、多くの児童が「色々な意見があると思った。」「教科書だけではなく、本当に住んでいる人の意見が聞けて良かった」など、他校の児童との話し合い活動を通じて、多様な意見に触れ自分の考えを深めたり広げたりすることができたと実感していた。</p> <p>【見込まれる成果２】</p> <p>児童が主体的にＩＣＴを活用し、協働的な学びや言語活動を行うことによる児童の情報活用能力向上</p> <p>《検証方法》</p> <p>児童に対し情報活用能力チェックリストを年度当初、年度末に実施し、全学年とも平均ポイントを10%向上させる。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>○情報活用能力チェックリストを活用することにより課題が明確になり、スキルアップへつながる学習を確実に行うことができ、課題である項目を着実にスキルアップすることができた。</p> <p>○児童に対し情報活用能力チェックリストを年度当初、年度末に実施し、児童の情報活用能力の肯定的な回答の推移をみた。4年生においては全体での肯定的な回答は2.4%減少したものの、どの項目においても80%を超えることができた。その他の学年においては、年度末の結果が年度当初に比べ上がっている。年度当初のポイントを上回っている。</p> <p>【見込まれる成果３】</p> <p>教職員のＩＣＴ活用スキルや授業力の向上</p> <p>《検証方法》</p> <p>教員のＩＣＴ活用指導力アンケート（文科省「学校情報化調査」）において、総合平均ポイントが3.5以上となるようにする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>○昨年度の成果を生かし、学校休業中にも遠隔で双方向のやり取りを意識した活動を積極的に行うことにより、様々なツールを活用した授業力を向上させることができた。</p> <p>○教員のICT活用指導力アンケート結果が、総合平均ポイントで3.4ポイントと目標に僅かに届かなかったが、特に「授業中にICTを活用して指導していますか?」という項目ではすべての教員が肯定的な回答であった。その他の項目についてもほとんどの項目が3.5ポイントに近い数字であったが、「授業に必要なプリントや提示資料を作成するために、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用していますか?」「児童が自分の考えをワープロソフトで文章にまとめたり、調べたことを表計算ソフトで表や図などにまとめたりすることを指導していますか?」においては、肯定的な回答が低く、今後はこの項目についての教師のスキルアップに努める。</p> <p>【見込まれる成果４】</p> <p>《検証方法》</p> <p>〔検証結果と考察〕</p>
---	-------	---

研究コース  
代表校園

グループ研究 A  
大阪市立今里小学校

選定番号  
校園長名

A122  
山口 祐子

5	成果・課題	<b>【見込まれる成果 5】</b>			
		《検証方法》			
		〔検証結果と考察〕			
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	<b>【見込まれる成果 6】</b>			
		《検証方法》			
		〔検証結果と考察〕			
		<b>【研究全体を通じた成果と課題】</b> 具体的に記載してください。			
		<b>＜成果＞</b> ○情報活用能力チェックリストの結果では、全学年の平均ポイントが90%前後に上がり、児童が日常的にICTを活用し、課題に対して主体的に取り組むことで情報活用能力が向上した。 ○オンライン会議アプリや協働学習アプリを活用することで、他者と比較する機会を多く持ち、自分の考えを確かなものにし、深い学びを実現することができた。また、多様な意見に触れ、対話的な学習を発展させた。 ○新教科書に合わせたICTを活用した年間計画を再作成する中で、情報活用能力チェックリストで見た課題をクリアできるような内容を組み込んだ。			
		<b>＜課題＞</b> ○一人一台タブレット端末活用に即した形での情報モラル教育、プログラミング教育の年間計画の再構築や情報活用能力チェックリストの見直し。 ○年間を通して安定した情報活用能力が実感できるようなICT計画の見直し。 ○Teamsの活用方法、新端末に導入されるアプリの教職員のスキルの向上と活用方法の研究。			
		<b>《代表校園長の総評》</b> 情報活用能力についての児童の課題を明らかにし、その育成とともにパフォーマンス課題をテーマとした教科横断的な授業の実践に、全教員で取り組んだ。日常的に授業でのICT活用を積み重ね、授業研究会では遠隔授業や1人1台端末活用の授業の新しい取り組みに挑戦した。研究支援予算により、ICT機器環境の整備も大いに進めることができた。児童のキーボード文字入力やプレゼンテーション力が大きく向上し、教員のICT活用指導力も充実している。JAET学校情報化先進校へのエントリーも準備中である。教員からは、次への課題と意欲が生まれており、次年度も引き続き研究を実践発展させていきたいと考えている。			
		研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日程	令和 3 年 1 月 27 日	参加者数	約 25 名
		場所	今里小学校（オンラインによる公開授業と研究発表）		
		備考	参加者数は申込まれたTeamsのID数		

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究 A	
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)	
661456	
選定番号	A122

代表者	校 園 名 :	大阪市立今里小学校
	校 園 長 名 :	山口 祐子
	電 話 :	06-6981-8800
	事務職員名 :	栗田 有加
申請者	校 園 名 :	大阪市立今里小学校
	職 名 ・ 名 前 :	主務教諭 藤井 優美子
	電 話 :	06-6981-8800

## 令和 2 年度 「がんばる先生支援」研究支援 経費執行使途報告書

◇「がんばる先生支援」として、経費を次のとおり報告します。

研究テーマ	I C T を活用し、共に学び共に育つ授業を創造する ～情報活用能力育成を目指した主体的・対話的で深い学びの実践～
-------	--

費 目		金 額	備 考
8 旅費	5 普通旅費		
教育センターでの経費執行	計		①
7 報償費	1 報償金	118,680	
10 需用費	1 消耗品費	36,630	
	4 印刷製本費		
11 役務費	1 通信運搬費		
	5 筆耕翻訳料		
13 使用料及賃借料	1 使用料		
17 備品購入費	2 校用器具費	543,600	
	3 図書購入費		
18 負担金、補助金及交付金	5 会費		
学校での経費執行	計	698,910	②
合 計		698,910	①+②

研究活動にあたって、どのような目的で、どのような物品を購入したのか、主なものを記述すること。また、経費執行における申請時からの主な変更点を記述すること。

ICT活用授業のために授業用パソコン、大型テレビを購入し、ポータブルアンプ、マイク付きヘッドフォン等を購入した。

# 内訳明細

( R02 様式 5-2 )

研究コース

グループ研究 A

選定番号

A122

代表校園

大阪市立今里小学校

校園長名

山口 祐子

費 目	内 容	数量	単 価	金 額	実施月
8 - 5 普通旅費					
	費 目 小 計				
7 - 1 報償金	研究会講師 (大学教授)	2	23,720	47,440	
	研究会講師 (大学教授)	1	22,700	22,700	
	研究会講師 (大学教授)	1	7,100	7,100	
	I C T活用授業講師	4	10,360	41,440	
	費 目 小 計			118,680	
10 - 1 消耗品費	マイク付きヘッドフォン	14	2,145	30,030	
	HDMIマイクロケーブル	1	6,600	6,600	
	費 目 小 計			36,630	
10 - 4 印刷製本費					
	費 目 小 計				
11 - 1 通信運搬費					
	費 目 小 計				
11 - 5 筆耕翻訳料					
	費 目 小 計				
13 - 1 使用料					
	費 目 小 計				
17 - 2 校用器具費	授業用パソコン	1	194,700	194,700	
	大型テレビ	1	196,900	196,900	
	ポータブルアンプセット	1	152,000	152,000	
	費 目 小 計			543,600	
17 - 3 図書購入費					
	費 目 小 計				
18 - 5 会費					
	費 目 小 計				
合 計				698,910	